

昔の僕と教科書の関係

愛知県 知立市立知立東小学校 6年
フノ チアゴ

僕はブラジル人です。一才の時に、日本に来ました。小学校に入ったときは、日本語が話せませんでした。

小学校に入学してすぐに、教科書をもらいました。算数は数字を見てなんとか分かりました。でも、国語は何十回読んでも、意味がわかりませんでした。国語の教科書との関係はとっても悪かったです。

僕の学校は他の学校と違って、国語は三つのグループに分かれて勉強しています。こだま、ひかり、のぞみという名前が付いています。二年間は日本語がほとんど話せない子が勉強するこだまグループにいました。その時は、教科書を見たくもありませんでした。

友達全員、のぞみグループにいました。僕は、負けたくありませんでした。だから勉強にはげみました。少しずつ、日本語を話すことはできるようになりました。

僕の一番の敵は音読で、気持ちよく読めませんでした。でも、日本語が上手になるためにも、音読が大事だと思いました。だから頑張って音読をしました。読むのは、とても辛かったです。でも僕は将来の夢があったので、目が痛くても意味がわかるまで教科書を読みました。そのおかげで、三年生には、ひかりグループに入れました。

こだまグループでは教科書に簡単な日本語に書き換えた紙を貼って、勉強していました。その紙は簡単で読むところが少なかったです。

でもひかりグループには、そんな紙はありません。仲良くなったはずの教科書との関係が、また悪くなりました。仲が良かった時は、読むのが楽しかったけれど、紙が無くなったひかりグループではちっとも楽しくありませんでした。それでも、毎日音読をやっていましたが、ぜんぜん意味がわかりませんでした。

そしてある日、教科書を読むのに、あきてしまいました。

そこでこう思いました。もっと日本のアニメを見たり本を読んだりすればもっと教科書に書いてあることがわかるようになる気がしました。あの日から図書室に行って、たくさん本を読むようにしました。その戦いは十ヶ月も続きました。

そして、四年生の頃、とてもいい知らせが入ってきました。それは、のぞみグループにあがれるというものでした。のぞみグループの初日は、すこし難しかったけれど一週間もたつと、教科書との関係は再びよくなり、前よりも深まりました。

気がつくともだだん日本語も上手になってきていました。その時に気付きました。教科書があったから、僕は日本語の勉強をがんばれたのだと。

あの時頑張って教科書と仲良くなれて良かったと今でも思っています。